



## 1 主屋 土間内部足場の解体

主屋の工事の初期からずっと居座り続けていた土間の内部足場を解体した。木工事を終了した後、煤弁柄塗装・古色付け・土壁の修理と復旧などの作業を行っていた。いざ解体するとなると、修理を忘れていた箇所がないか気が気でなかったが、解体し終わった後の土間の広さには改めて感心した。



## 2 主屋 上がり段の据え付けと土間叩きの準備

内部足場の解体が終わったので土間叩きの準備にかかった。

上がり段の据え付けは、軸部の不陸調整を行ったので、元の礎石の高さでは収まらないため、土台の礎石の据え付けと同様に、上がり段を所定の高さに据え、礎石をそれに合わせて下から持ち上げて収めた。

敷地内の水道工事はがまだ先なので、流しへの引き込みのみを先行して行った。当初の石積み礎石の下を通さなければならないため1メートルほど掘り下げなければならなかった。



## 3 主屋 座敷部スズミの補修

主屋の木部の補修は、このスズミの修理でほぼ終了である。解体せずに補修を行う予定であったが、柱・根太・根太掛けを残して、解体して修理を行わなければならなかった。



#### 4 主屋 屋根葺き工事

主屋の屋根工事に着手した。主屋は棧瓦葺きの割付から始めたが、再用瓦の利き幅が9寸1分から8寸6分まであり、正面の西側から反時計回りに利き幅の広い瓦から用いることとした。使用箇所を決めるために、まずは利き幅で瓦の分類を行い、枚数を数えている。並べるときには、棧尻・向こう跳ねなど瓦の癖をみる必要があるため、かなりの手間である。



#### 5 表門 建ち・とり・レベル等の調整と柱の補修

主屋の木工事も概ね終了してきているので、表門の修理にかかった。表門は、前年度に土台廻りの補修を行ったが、部屋境の柱等の補修はまだであった。また、土台のとおりも若干動いているので、これらを調整した上、柱等の足元の補修を行っている。この後、大引き等を入れて床組を固めてから小屋組の補修に取りかかる予定。

写真右は、腰貫の仕口を残した金輪継ぎ。私にはこのような継手は発想できない。鳴海監督のなせる技であろう。



#### 6 内蔵 屋根葺き工事

主屋の屋根工事と並行して、内蔵の庇にも取りかかった。庇は長屋蔵・北蔵の庇と同様、捨て銅板を敷き込み、空葺きとする。